

都道府県番号	42
都道府県名	長崎県

()
該当する観点にチェックすること

・学校の概要（平成14年4月現在 実施計画書から転載可）

波佐見町立南小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21	
児童数	70	57	74	60	71	80	1	413		

・実践研究の概要
主題（テーマ）

<p>・主題（テーマ） 自ら学ぼうとする子どもの育成 ～基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方～</p> <p>・テーマ設定の趣旨 本校では、学校教育目標「心豊かで、たくましい児童の育成に努める」及びめざす児童像「なかよく、元気で、学びあう子」を受けて、標記の研究主題を設定した。教育の今日的課題である「生きる力」の育成をめざして、自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考えることのできる力（確かな学力）を身に付け、伸ばすことをねらいとするものである。</p> <p>そのためには、基礎・基本の確実な定着を図ることが大切だと考え、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善や児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るべく研究を推進している。多様な学習集団を編制し、できるだけ多くの教職員が指導にあたって支援していくことは、「できる喜び」につながることはもとより「心の教育」の推進や「生徒指導の充実」を図る上でも効果的であると考えている。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

- ・研究主題は、本研究の凝縮されたものである。全職員がいつもこの研究主題を心にとどめ、研究に行き詰まったときには必ず研究主題に立ち返ることができるよう、何度も議論を重ねて共通理解を図り、研究仮説を立て、さらに低・中・高学年部会での具体仮説を立て、仮説検証法の研究を進めるようにした。
- ・全校児童に個に応じた支援ができるよう、すべての学年に複数教師で指導ができるような時間割の編成を行った。その結果、多様な形態（TT・習熟度別学習・興味関心別学習・少人数学習など）による学習の実施が可能になった。
- ・日課に「はげみタイム」・「スキルタイム」を位置づけた。「はげみタイム」では、個別指導の必要な児童に補充的な学習を行ったり、習熟の十分な児童には、自学の習慣をつけさせたり、発展的な学習に取り組みせたりすることができるようになった。また、「スキルタイム」では、繰り返し学習を行うことで基礎的・基本的なことを身に付けさせることができた。
- ・情報化推進のための研修を行い、開発した教材や資料等を効果的に保管したり、共有化したりして研究を深めた。

() 実践研究の内容

第4学年 単元名「わり算の筆算（2）」での発展的な学習・補充的な学習の実践概要

第4学年になって単元4「わり算の筆算（1）」では、2・3位数÷1位数の計算の仕方を学習し、除法の筆算形式が「たてる かける ひく おろす」の手順の繰り返しになっていることを学んだ。本単元では、除法について2・3位数÷2位数の計算を扱い、除法の適用される数範囲を拡張していくことにする。この単元で、整数の四則に関する学習が出そろふことになるので、子どもたちにしっかり身に付けさせることが肝要である。

本単元では、除数が2位数となり、前に学習した除数が1位数である場合に比べ、児童の習熟が困難であると予想できたので、単元全体を通して複数教師による指導を行った。

単元の第1次では、チームティーチングの指導形態をとり、2位数÷2位数＝1

位数の計算に取り組んだ。第1次4時間分のふりかえりテストの結果に児童の希望を加味しながら、第2次では6時間全てを3つのコースに分けて、習熟度別学習を行った。「チャレンジコース」では、5時間目に発展的な学習に取り組んだ。また、「たしかめコース」と「じっくりコース」では、5時間目に補充的な学習に取り組んだ。なお、「じっくりコース」は、第2次の6時間を通して、個に応じたきめ細やかな指導のためにティームティーチングの学習形態をとった。

さらに、第3次では、第1次と同じように、各学級でのティームティーチングの学習形態にもどし、今までの学習を生かしながら、「倍」の問題場面を除法を用いて解決した。

指導の実際 (全13時間 本時9 / 13時間)

過程	学習活動	形態	評価規準	個に応じた支援	時
第1次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数÷2位数の除法の計算の仕方を考える。 ・仮商修正が1回ある除法の計算の仕方を考える。 ・仮商修正が2回以上の除法の計算の仕方を考える。 ・見当をつけた商が小さすぎた場合の計算の仕方がわかる。 	TT	関 ・2位数÷2位数の除法の計算の仕方を考えたり、進んで生活に生かしたりしようとする。 考 ・除数が1位数の計算をもとにして、2位数÷2位数の計算の仕方を考えることができる。 表 ・計算が確実にでき、必要な場面で活用できる。 知 ・計算の仕方がわかる。	・商の見当と仮商修正について重点的に指導する。 ・児童の習熟の様子を確実に把握し、第2次の習熟度別学習につなげる。	
		TT			
		TT			
		TT			
習熟度別学習					
第2次 (6)	「じっくりコース」		[たしかめコース]	[チャレンジコース]	時
	・3位数÷2位数=1位数の計算の仕方を考える。		・3位数÷2位数=1位数の計算の仕方を考える	・3位数÷2位数=1位数の計算の仕方を考える	
	・仮商修正がある3位数÷2位数=1位数の計算の仕方を考え、筆算に取り組む。		・仮商修正がある3位数÷2位数=1位数の計算ができる。	・仮商修正がある3位数÷2位数=1位数の計算ができる。	
	・3位数÷2位数=2位数の除法の計算の仕方を具体物を操作しながら考える。		・3位数÷2位数=2位数の除法の計算の仕方を既習の計算をもとにして考える。	・3位数÷2位数=2位数の除法の計算の仕方を既習の計算をもとにして考える。	
	・3位数÷2位数=2位数の除法の計算の仕方を具体物の操作と結びつけながら、筆算でする。		・商に空位の0がたつ3位数÷2位数=2位数の計算ができる。	・商に空位の0がたつ3位数÷2位数=2位数の計算ができる。	
	[補充的な学習](TT) ・商に空位の0がたつ3位数÷2位数=2位数の計算を具体物(色紙)を操作しながら考える。 商に空位の0が立つ問題に取り組む。		[補充的な学習] ・今まで出てきた2位数÷2位数、3位数÷2位数(仮商修正のないもの) ・仮商修正1回のもの ・仮商修正2回のもの ・仮商修正3回以上)をゲームを通して、確実に計算する。 お助けカードやたしかめサービスの工夫。	[発展的な学習] ・除法の計算のアルゴリズムに気づき、除数が3位以上の問題作りに取り組む、3位数以上÷2位数の計算に取り組む。	
	・練習問題に取り組み、2位数で割る計算の練習に取り組む。		・練習問題に取り組み、計算が確実にできるようにし、除法の計算のアルゴリズムに気づく。	・自分のめあてに合わせて練習問題に取り組み、計算が確実にでき、適切に用いることができる。	

	評価規準		個に応じた支援		
	<p>関 3位数÷2位数の除法の計算の仕方を考えたり、進んで生活に生かしたりしようとする。</p> <p>考 既習の計算をもとにして、3位数÷2位数の計算の仕方を考えることができる。</p> <p>表 計算が確実にでき、必要な場面で活用できる。</p> <p>知 計算の仕方が分かる。</p>		<p>次の4点について、理解が確実になるよう、児童の実態に合わせてコース別に学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗法や加減計算に誤りがないか。 ・商の見当や仮商修正ができるか。 ・商を立てる位置は正しいか。 ・除法の手順が正しいか。 		
第3次 (3)	学習活動	形態	評価規準	個に応じた支援	時
	<ul style="list-style-type: none"> ・何倍かを求めるには、除法を用いることを知る。 ・もとにする量を求める仕方を考える。 ・単元のまとめと計算の練習をする。 	TT TT TT	<p>関 ・[倍]の問題場面が生活の中にあることに気づき、進んで何倍になるか考えようとする。</p> <p>考 ・図を用いるなどして考えることができる。</p> <p>表 ・[倍]の問題場面を除法を用いて解決することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が十分でない児童は、はげみタイムで補充学習をする。 	

() 成果と課題

成果

- ・色紙を実際に分けてみる、絵筆算を書くなどの作業的・体験的な算数的活動を繰り返し行うことで、数量の感覚を豊かにしたり、意味理解を深めたり、考える力を高めたりすることができるということがわかった。
- ・[数と計算]領域では、習熟度別学習が大変効果的であることがわかった。習熟度に応じた教材を開発することで、習熟の十分な児童は更に伸ばすことができ、習熟の十分でない児童は、基礎・基本をじっくり身につけさせることができた。
- ・数時間にわたって習熟度別学習を行う場合には、コース別の学習内容を児童にわかりやすく提示して、児童にも学習内容を十分把握させ、自分に合ったコースを自分で選択できるように、また変更可能なようにしておいた方がいいことがわかった。

課題

- ・習熟度別学習に取り組むには、毎時間の児童の習熟の度合いを確実に評価していかなければならない。毎時間の評価を正確にしかも負担にならないように行うにはどういう方法が効果的かについてさらに研究が必要である。
- ・一人一人の児童にきめ細かな指導を行うために、今後も補充的な学習・発展的な学習の教材開発に取り組まなければならないが、開発した教材や資料等の効果的な保管、共有化を図り、全職員で研究を深めていく必要がある。

() 成果の普及方策

- ・研究の概要及び上記の発展的な学習や補充的な学習のための教材開発についての詳しい内容は、2月末日までにホームページ上に公開予定
- ・現在、各学年の実践についてのホームページ作成中、3月末日までに公開予定
(<http://www.town.hasami.nagasaki.jp/minami/>)
- ・平成15年11月7日(金)研究発表会開催予定
(場所：波佐見町立南小学校、対象全ての教職員)